

「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」  
推進校実施報告書

1 学校名：埼玉県立深谷高等学校

2 実施日時：2018（平成30）年12月14日（金）11：55-12：45

3 対象：生徒約650名（全校）

4 派遣オリンピック：宮崎 善幸 さん

（ラグビー女子セブンズ ヘッドコーチ リオデジャネイロ大会出場）

中嶋 亜弥 さん

（ラグビー女子セブンズ リオデジャネイロ大会出場）

5 授業内容：講演

2018（平成30）年12月14日（金）に、埼玉県立深谷高等学校にて、ラグビー女子セブンズの日本代表ヘッドコーチの宮崎善幸さんと中嶋亜弥さんによる講演が行われました。講演に際して、深谷高等学校では保護者宛のプリントを配付し、周知を行いました。また、深谷市はラグビーが盛んな地域で、今回の講師でおられる宮崎さんの指導を受けている在校生もおり、地域や学校の特性を生かした講演でした。

「女子ラグビー世界を目指することで見えた景色」というテーマで宮崎さんと中嶋さんの2人で行われた講演は、コーチという「支える」立場とプレーヤーという「する」立場という、それぞれ異なる立場からラグビーとの関わり方についてお話されました。

宮崎さんからは、主に自身のコーチ哲学とオリンピック出場までの軌跡についてお話がありました。宮崎さんは、自らのコーチ哲学を「信じ続ける」ことである、と紹介されました。この哲学は、宮崎さんが高校生のときに、現在の深谷高校の新井校長先生（元ラグビー部顧問）にラグビーを教わる中で学びました。高校生のときに宮崎さんは、全国大会出場を目指して毎日辛い練習を続けても、なかなか勝利につながらず、何度も悔しい思いをしました。しかし、3年生でキャプテンを担っていたときに、新井先生から「信じ続ける」ことの大切さを教えられました。そして、何度負けても諦めずに努力を続け、冬の全国大会に出場することができました。この経験が、宮崎さんのラグビー人生を貫く「信じ続ける」哲学に結びついたそうです。宮崎さんは、目標をたてると必ず壁にぶつかる、そのときにこそ「信じ続ける」ことが重要になると考えています。実際に、ラグビー女子セブンズの指導においても、コーチとしてオリンピックに出場するという目標をたてたものの、世界の壁は高く困難な状況が続いたそうです。そのような状況でも、タックルの練習、浜辺でのランニング、自衛隊での体験入隊など、様々なトレーニングを課した結果、目標としていたオリンピック出場が叶いました。このように「信じ続ける」ことを自身の哲学とされている宮崎さんは、講演の最後に、目標を設定して「信じ続ける」ことを大切にしてほしい、と生徒に対してメッセージを送られました。

中嶋さんからは、ラグビーを始めてオリンピックに出場するまでの経験を通して学んだ、生徒に伝えたいことについてお話がありました。高校生までバレーボールをやっていた中嶋さんは、たまたま大学生のときに見たアメリカンフットボールの試合に感動し、アメリカンフットボールをしたいと思いました。しかし、なかなか女性

が参加できるアメリカンフットボールのチームが見つからなかったこと、さらに当時はアメリカンフットボールとラグビーの違いがわかっていなかったことから、家の近くにあったラグビーの女子チームに所属することになりました。しかし、中嶋さんは元々あまり運動神経もよくなく、練習でうまくいかないことばかりでした。それでも、「夢は必ず叶う」という気持ちで努力を続け、26歳のときに日本代表に初選出され、30歳のときにリオデジャネイロ大会の日本代表メンバーに補欠で選ばれました。そして、リオデジャネイロ大会本番では、けが人が出たことで試合への出場を果たしました。このようなラグビーとの出会いからオリンピック出場までの経験を振り返りながら、中嶋さんは、夢や目標は叶わないこともあるが、何事も本気でやると次の新しい夢や目標ができるようになる、だから「未来の自分に感謝される今日を過ごす」ことが大切である、というメッセージを生徒に送られました。

最後に、代表生徒からの感想と謝辞があり、散会となりました。

## 6 授業の様子



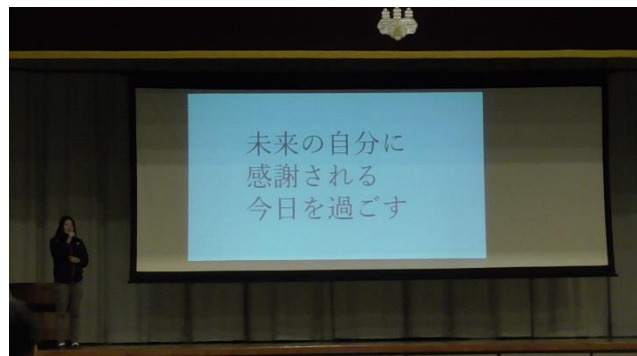
【 宮崎さん 講演① 】



【 宮崎さん 講演② 】



【 中嶋さん 講演① 】



【 中嶋さん 講演② 】



【 代表生徒の挨拶 】